

東通村原子力発電所安全対策委員会開催

～安全協定・原子力防災・東北地方太平洋沖地震などについて説明～

3月16日、東通村防災センターにおいて、東通村原子力発電所安全対策委員会が開催されました。

この委員会は、村内の関係団体等により構成されており、原子力発電所の状況の報告や確認などを行うとともに、ご意見などを伺い、村として、様々な対応をしていくため設置しているものです。

平成22年度では、東北電力1号機の固体廃棄物貯蔵所の増設に関するご意見を伺っており、2回目の開催となります。

会議では、越善村長より、3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震において、被災された方々に対するお見舞い、当村では、漁業関係を中心に津波に



越善村長あいさつ

よる物的な被害があり、今後、関係者と復旧に努めていくこと、また、福島第一原発の事故の一刻も早い収束と、これ以上の被害の拡大がないように願うとともに、村としても、今後の推移を踏まえ、対応していくとの挨拶がありました。

その後、事務局より、当村における東北電力1号機に対する対応状況、原子力防災訓練や緊急被災者医療などの原子力防災に係る取組状況についての報告がありました。

委員から、停電時の情報収集の方法、避難区域が発電所から半径10キロメートルを越えた場合の避難所の確保等についてのご質問やご意見などがあり、村より福島第一原発の事故の状況を踏まえ検討す



委員からのご質問

るとの回答がありました。

また、東北電力、東京電力のそれぞれから、東北地方太平洋沖地震への対応状況の速報と、東北1号機の定期検査については地震の影響による人や物資の状況により工程に影響がでる可能性があること、東京電力1号機の建設工事については当面本格工事を見合すること等について説明がありました。

委員から、東通原発における津波対策についてのご質問があり、両電力より、東通原発では6から7メートルの津波を想定し、敷地は、東北1号機は海抜約13メートル、東京1号機は海抜約10メートルとしてしていること、今回の津波を検証し、その対策を進めて



委員からのご質問

いくとの説明がありました。

また、委員より、今回の福島第一原発の事故について、詳細に調査し、その結果について、村民に対して説明するようご意見がありました。

さらに、委員より、原発以外の部分として、今回の地震への対応に関する関係機関の情報共有化、津波対策としての避難ルートの確保等についてご意見等がありました。

なお、今後も、福島第一原発の状況を踏まえながら、当委員会を開催していくこととしました。

村としても、今回の福島第一原発の事故の結果を踏まえ、一刻も早い福島第一原発の事故の収束と、被災された地域の復興をお祈りします。



東北電力、東京電力より説明